

令和6年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの 使用に関する実態調査」結果概要

1 回収状況

54市町村全てから回答有。(回収率 100%)

2 年度別全項目実施率について（別添資料1-3）

資料1-3は、令和2年度から令和6年度までの全国及び千葉県のチェックリスト全項目実施率の推移について示したものです。

全てのがん種、集団検診・個別検診いずれも、全国実施率を超えています。

全てのがん種の集団検診は昨年度より増加し、9割を超えています。

個別検診は昨年度に比べ、乳がん以外、横ばいもしくは微増しており8割を超えています。

3 令和6年度の実施率について（別添 資料1-4）

資料1-4は、集団検診及び個別検診のチェックリストの各項目について、全国と千葉県の実施率をまとめたものです。数値が赤字になっている項目は、千葉県の実施率が全国の実施率を10%以上下回っています。

＜実施率が低い項目（集団・個別共通項目）＞

問1-2 対象者全員に、個別に受診勧奨を行いましたか

全がん種の平均値 集団検診 R6:31.5 R5:25.0

個別検診 R6:34.5 R5:28.0

問6-2-3 課題のある検診機関に改善策をフィードバックしましたか。

全がん種の平均値 集団検診 R6:52.6 R5:36.8

個別検診 R6:20.0 R5:14.9

4 市町村別の実施率について（別添 資料1-5～1-6）

資料1-5は市町村の回答を一覧にしたものであり、資料1-6は市町村別の実施項目数を積み上げグラフで表示したものです。

全ての検診において、市町村により実施状況に顕著な差がみられています。

5 令和6年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」 結果報告書

(国立研究開発法人 国立がんセンターがん対策研究所 検診研究部 検診実施管理研究室)より抜粋

まとめ

全体としては、集団検診においては83.8～84.3%、個別検診においては74.3～78.2%という高い実施率が示されました。しかし一部の項目は極端に実施率が低く、課題解決が重要です。

集団検診では特に「検診未受診者への再勧奨」、「精検機関に精検結果の報告を求めること」、「検診機関の質担保（精度管理評価や改善策のフィードバック）」の体制整備が遅れています。一方、個別検診では、全体的に集団検診と比べて実施率が低く、体制整備がさらに遅れている状況です。現時点で残されたこれらの課題には、現場の努力だけでは解決が困難なものも含まれています。市区町村、都道府県、検診機関、郡市区医師会、都道府県医師会等が連携して課題を共有し、過去の好事例なども参考にしながら、体制改善を図ることが求められます。